

会報

THE ROTARY CLUB OF TSURUOKA



8月



松田美恵さんの絵

第363回例会 1965.8.2 (火) 晴

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや (2) 0707・2838番

事務所 鶴岡市馬場町十日町口 商工会議所内 (2) 5775番

A BETTER WORLD THROUGH ROTARY (ロータリーでより良き世界を)

出席報告

本日の出席 会員数 59名
出席数 41名
出席率 69.49%
前回の出席 前回出席率 72.88%
修正出席数 52名
確定出席率 88.14%

欠席者 長谷川君、新野君、海東君、金井君、齋藤(信)君、今間君、皆川君、大野君、佐藤(仁)君、菅原君、津田君、辻君、林君、八丁目君、三井(健)君、加藤君、高橋君、阿部(襄)君

メックラ

安藤君、三浦君、石井君、菅原君、石黒君、鈴木(善)君、金井君、三井(健)君、今間君、森田君 (鶴西R.C.)
林君 (酒田R.C.)

ヒンター

富樫又太郎君、本間庄一君 (村上R.C.)
佐藤善三君 (酒田R.C.)
伊藤博司君 (鶴岡西R.C.)
金子左武郎君 (三条R.C.)

ゲスト

田子浦親方 (元出羽錦関)
三井玉男君
玉男君の友人 ポブ君

司会

会長 早坂君

卓話

相撲社会と相撲の見方

田子浦親方 (元出羽錦関)

本日鶴岡R.C.で何か話すように云われましたが、皆

様も御存知のように相撲取は非常に口の重いものでアナウンサーがよく質問して『関取今日の相撲はよかったですネ』『エー』『あの作戦は考えてましたか』『イエ』『あそこで投げ打ったのは覚えてますか』『わかりません』……これが大体相撲取なのです。その畑から出て来た私ですので寸分違はずはありません。都市のお偉方の前で話せというのですから、実は昨夜からねてもねつかなかった次第です。3貫目位体重が減ったのではないかと思います。

私も戦前、戦後、戦中と25年間相撲生活をやって参りましたが、相撲社会も戦前と戦後では大きく変わりました。戦前は相撲社会に勤まればどんな社会にも勤まると言っただけです。私共入った頃は相撲の全盛で双葉山69連勝の華やかな頃でした。今思い出して非常に感銘深いのは先々々の出羽海師匠の偉さですが、実は同じ部屋の安芸海関が69連勝の双葉山を倒した時ですが全くお祭以上のさわぎでした。

その時師匠は安芸海関を呼んで『今日はおめでとう、よくやりました』と言った後、更に『勝ってさわがれる力士より負けてさわがれる力士になれ』と言われたそうですが、これは本当によい言葉だと思ってます。戦前の相撲社会の礼儀作法はどの社会よりもよかったと思う。

私等が新弟子を迎えた場合教えることは『相撲に強いか弱いかは本人の努力次第ですが、唯、大部分の人は身体の内部故障や怪我でこの社会を去って行くがもし去る時があっても相撲社会のよい面だけは学んで帰れ』と言います。

今の佐田山にしましても当時私に4人程若いものがついていましたが佐田山、安芸光、野中、鈴木の中で野中が一番伸びると思いました。佐田山は勢々努力して十両

が幕内1～2番に入ればと思ってました。

相撲取で最も大切な稽古、意地を佐田山は人一倍持っていた為に現在の地位をしめたものです。これは本人の努力だと思います。佐田山の事で思い出すのは九州場所です。7時頃には関取衆でも稽古場に居りますが佐田山が真赤な顔をして8時半頃やって来ました。私は『三役の上にはまだある、大関もあれば横綱もある、いい気になったり傲慢になってはいけない』としっかりつけ『稽古をつけるから来い』と言って20番程取りましたが1番も勝てませんでした。佐田山の叱られた事に対する意地もあったでしょうが、こんなに強くなったかと言う嬉しさと反面自分の弱くなったことに対する情けなさをしみじみと感じさせられました。

私も以前は7時か8時に稽古場に行けばよかったです。最近が一番下のものから監督しなければなりませんので4時半に起きて若いものを起こします。夏の4時半はさほどでもありませんが冬の4時半は寒さと眠さは相当なものです。相撲は日本の国技であり多くの人に親しまれています。生まれて間もなく歩く、しばらくしてお父さんやお母さんに相撲を取ろうと駆けよってくる。これが相撲もはじまりで誰もがみんな経験している事です。

諺に『江戸の大関より土地の三段目』ということがあります。幸い当地は柏戸関の出身地でもあります。柏戸関も郷里に帰ってよかったですと云う様な後援をお願いします。

4～5年前ハワイに巡業した時団長が質問を受けました『相撲は何故あんなに何回も仕切なのか』団長の困っている様子に私はマラソンに例えて説明しました。1万米マラソンの場合はスタートはあまり問題でないがこれが100米、50米の短距離になるにつれスタートが勝敗の鍵になります。あの狭い土俵で勝負する相撲に於ては立合いで勝負の7～8割を決します。それで何回も仕切って呼吸を合わすのだと説明したら解ってくれました。

相撲の見方も様々あるものです。東京のたまり会と言うと土俵のぐるりを囲んでる人達で中には30年も50年も相撲を見ている人もいますが相撲というものは見れば見る程面白くなるということです。例えば仕切ながら相手の足をチラッと見る、見られた方ではこれは足を蹴るなと思ってもその態度を自分に出すと負けなんです。相手が足を蹴ると思ったら知らない顔をして、立ったらその足を引込め相手をつかまえると言った方法、それからましわを取れそうで取れない場合、取らせてはいけませんが、そこに心を集中させて外掛けとか、内掛けやる方法など長く相撲を見ているとそこまで解って来ます。それによって相撲も更に面白くなってきます。

相撲社会では番付の一番の差が人と虫けら程違うという事です。戦前のことですが兄弟子から買物を頼まれるそれが一人ではない、『煙草買ってこい』次の兄弟子から『薬買ってこい』もう一人から『草履買ってこい』と

3つもいつかる、買物を済ませ帰って来て煙草を渡すと遅いと言って殴られる『すみません』と一こと言えば一つ殴られて済むのですが『ほかに草履と薬を頼まれたので』等と弁解でもしたら又3つ4つ殴られたものです。戦後相撲取が少なくなった為興業が出来ないものですから師匠から若いものをいたわれとしこまれました。最近礼儀も大部乱れて参りましたが、他の社会に比べればまだ厳しいし良いと思います。

それから私が現役時代よく聞かれた事です『あなたは何故塩を少ししかまかないのか』と言われましたが終戦直後当時は非常に塩は貴重品で土俵を清めればよいのだから余り多くまくなと言われました。塩がなくて焼野原の東京中から金庫に使われた砂を集め、それに塩を少々混ぜて使った事もあります。爾来塩を少しまくな習慣になったようなわけです。今理事長になった双葉山関が当時力水を1回しか飲まなかった事も同じことで関係があります。

御地の生んだ柏戸関が皆々様の御協力があったよかったですと言うような鶴岡場所であるように宜敷く御願致します。

◎8月2日の会長報告はスペースの関係で次号に掲載致します。

連絡事項

○幹事報告

▲会報到着 静岡南R・C、東京R・C

▲8月会員誕生(5名)

安藤寅助君 早坂源四郎君 三井徹君 三井賢二君
新野武君

奥様誕生(2名)

佐藤奈津子さん(伊和治) 三井章さん(健)

▲7月(1名) 嶺岸光吉君

奥様誕生(8名)

張生妹さん、新野はるさん、飯白安江さん、手塚定栄さん、小池英さん、佐藤清子さん(忠)、中台光子さん、藪田涼子さん

▲年間100%出席

三浦岩治郎君～6ケ年

五十嵐伊市郎君、新野武君～3ケ年

林茂助君～2ケ年 (五十嵐三郎君7月で2ケ年)

▲7月100%出席

本間君、加藤君、藪田君、高橋君、阿部襄君、林君、千葉君、平田君、佐藤忠君、三井健君、阿部公一君、安藤君、張君、早坂君、新野君、飯白君、池内君、石井君、石黒君、五十嵐三郎君、五十嵐伊市郎君、海東君、小花君、小池君、今間君、嶺岸君、三井徹三君、三井賢二君、中台君、芳網君、大野君、笹原君、斎藤栄作君、佐藤伊和治君、佐藤仁太郎君、佐藤昇君、莊司君、鈴木善作君、新穂光一郎君、五十嵐一郎君、鈴木弥一郎君、手塚君、鷺田君(44名)

スマイル

三井君(御子息玉男君、交換学生の使命を無事果たし、帰国)

張君 会長バッヂ頂戴して

嶺岸君 幹事バッヂ頂戴して

献立

うなぎ蒲焼、茄子漬物